

WHOに報告されたヒトの鳥インフルエンザ(H5N1)確定症例数

	2003～2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		合計	
	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数
アゼルバイジャン	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	5
ハンガリー	1		0	0	2	0	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	8	1
カンボジア	9	7	1	1	8	8	3	3	26	14	9	4	0	0	0	0	0	0	56	37
カナダ			0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
中国	38	25	2	1	1	1	2	1	2	2	2	0	6	1	0	0	0	0	53	31
ジブチ	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
エジプト	90	27	29	13	39	15	11	5	4	3	37	14	136	39	10	3	3	1	359	120
インドネシア	162	134	9	7	12	10	9	9	3	3	2	2	2	2	0	0	0	0	199	167
イラク	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
ラオス	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
ミャンマー	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ナイジェリア	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
パキスタン	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
タイ	25	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	17
トルコ	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	4
ベトナム	112	57	7	2	0	0	4	2	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	127	64
合計	468	282	48	24	62	34	32	20	39	25	52	22	145	42	10	3	3	1	859	453

注: 確定症例数は死亡例数を含む。

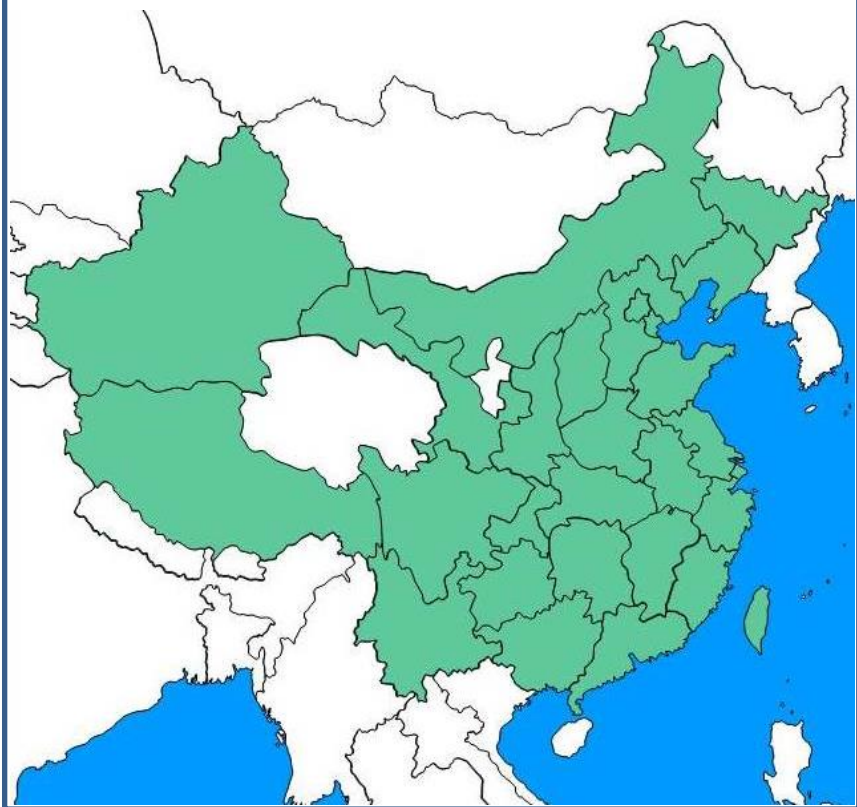
WHOは検査で確定された症例のみ報告する。

(2017年6月15日現在)

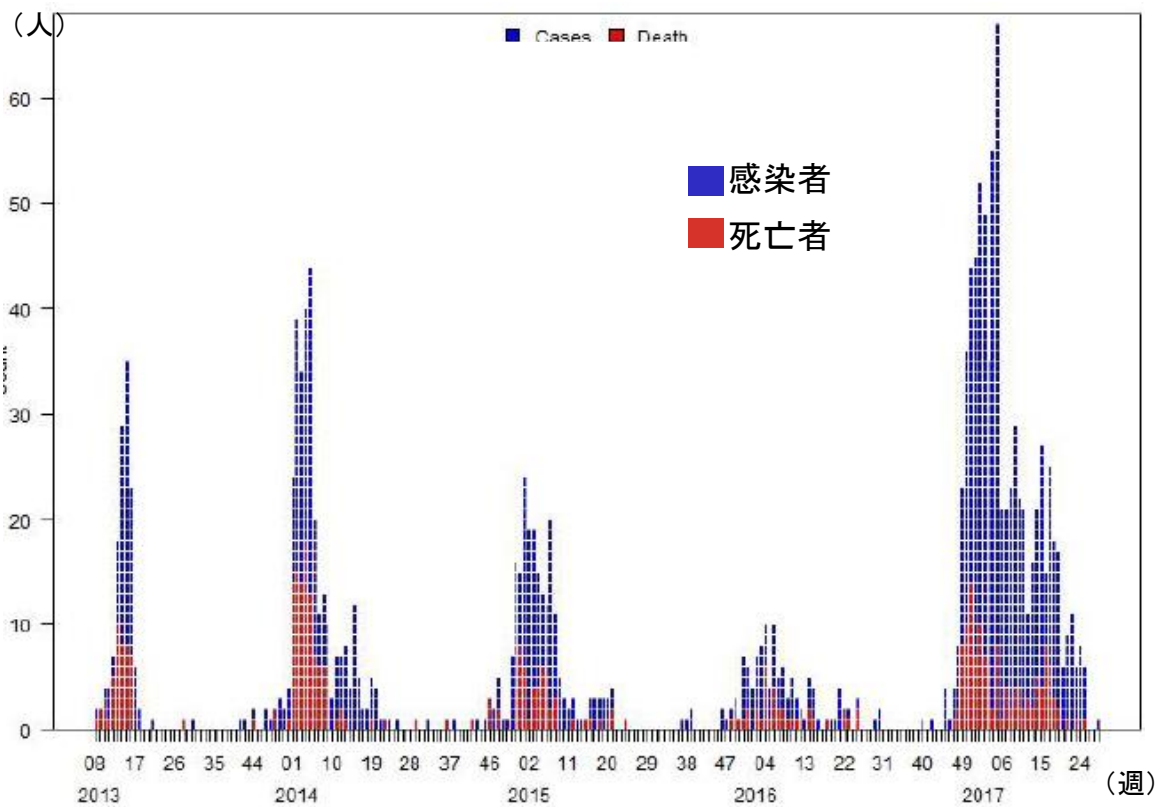
鳥インフルエンザA(H7N9)の発生状況(2013年3月以降)

2017年8月7日WHO発表によると、2013年3月以降、ヒト感染患者は1557名(うち、少なくとも605名死亡)。発生地域は中国(4市19省4自治区)、香港特別区、マカオ特別区、台湾で、輸入症例はマレーシア、カナダにて報告がある。

感染者発生地域



発症週別の感染者・死亡者数(出典:WHO2017年7月25日発表)



感染者数: 中国(香港及びマカオを含む)1549名、台湾5名、マレーシア1名(輸入症例)、カナダ2名(輸入症例)

鳥インフルエンザA(H5N6)のヒトへの感染例

No	報告年月	報告国 (行政区)	年齢	性別	発症日	トリとの接触歴	転帰	情報源*
1	2014 5月	中国 四川省 南充市	49	男	2014	死んだ家禽	死亡	WHO
2	2014 12月	中国 広東省 広州市	58	男	2014/12/4	家禽	重症	WHO
3	2015 2月	中国 雲南省 デチエン・チベット族自治州	44	男	2015/1/27	死んだ野鳥	死亡	WHO
4	2015 7月	中国 雲南省 デチエン・チベット族自治州	37	女	2015/7/6		死亡	WHO
5	2016 1月	中国 広東省 揭陽市	42	男	2015/12/12	生鳥市場	死亡	WHO
6	2016 1月	中国 広東省 肇慶市	40	女	2015/12/22	生鳥市場	重症→死亡*	WHO/Emerging Infectious Diseases 22, 8 August 2016
7	2016 1月	中国 広東省 深圳市	26	女	2015/12/24	家禽の肉を扱った	死亡	WHO
8	2016 1月	中国 広東省 深圳市	25	男	2016/1/1	生鳥市場	死亡	WHO
9	2016 1月	中国 広東省 深圳市	31	女	2016/1/8		重症	WHO
10	2016 3月	中国 広東省 惠州市	40	女	2016/2/20	生鳥市場	重症→死亡*	WHO/Hong Kong Centre for Health Protection
11	2016 5月	中国 湖北省 神農架林区	35	男	2016/4/9	生鳥市場	軽快	WHO
12	2016 5月	中国 湖南省 株洲市	11	女	2016/4/11	家禽	軽快	WHO
13	2016 5月	中国 安徽省 宣城市	65	女	2016/4/24	家禽	重症	WHO
14	2016 7月	中国 湖南省 湘西トゥチャ族ミャオ族自治州	50	男	2016/5/23		重症→死亡*	WHO/Health and Family Planning Commission of Hunan Province
15	2016 11月	中国 湖南省 邵陽市	47	女	2016/11/18	死んだ家禽*	重症→死亡*	WHO/Hunan provincial Center for Disease Control and Prevention
16*	2016 12月	中国 広西チワン族自治区	30	女	2016/11/8	死んだ家禽	重症	WHO

*WHO 本部および WHO 西太平洋地域事務局の情報に加え、他の政府系公式情報源より得られた情報を含む

(2017年4月18日現在)

平成28年度国内における高病原性鳥インフルエンザの発生・検出状況

家きん ● : 確定事例(9道県12事例)
すべてH5N6亜型

野鳥等 ☆ : 確定事例(22都道府県218事例)
すべてH5N6亜型

・月日は家きんでは疑似患畜確定日、野鳥では検体の採材(回収)日
・【】はリスク種の分類。野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応マニュアル(平成26年9月 環境省自然環境局)に基づく感染リスクの高い種(リスク種1>2>3>その他の種)

京都府(7事例)
京都市:コブハクチョウ7事例(12/22)【1】

兵庫県(18事例)
小野市:カモ類糞便1事例(11/14)【3】
西宮市:キンクロハソロ1事例(12/28)【1】
ユリカモ1事例(1/18)【2】
伊丹市:コブハクチョウ15事例(1/13-18, 23)【1】

鳥取県(5事例)
鳥取市:カモ類糞便3事例(11/6, 15, 18)【2, 3】
米子市:コハクチョウ2事例(11/20)【1】

山口県(1事例)
山口市:ホシハジロ1事例(1/9)【2】

長崎県(1事例)
諫早市:ハヤブサ1事例(12/22)【1】

佐賀県(1事例)
江北町:肉用種鶏1事例(約7.1万羽)(2/4)

熊本県(1事例)
南関町:採卵鶏1事例(約9.2万羽)(12/27)

大分県(1事例)
宇佐市:ノスリ1事例(1/12)【1】

北海道(1事例)
清水町:採卵鶏1事例(約28万羽)(12/16)

北海道(10事例)
苫小牧市:ハヤブサ1事例(11/24)【1】
北見市:オオハクチョウ2事例(12/2, 8)【1】
上士幌町:フクロウ1事例(12/12)【2】
音更町:ハヤブサ1事例(12/15)【1】
白老町:オナガガモ1事例(12/20)【2】
厚岸町:オオハクチョウ3事例(1/15, 18, 22)【1】
浜中町:オオハクチョウ1事例(2/22)【1】

新潟県(2事例)
関川村:採卵鶏1事例(約31万羽)(11/29)
上越市:採卵鶏1事例(約24万羽)(11/30)

新潟県(19事例)
阿賀野市:コハクチョウ13事例(11/27, 12/2, 5, 6, 8, 9-14, 16)【1】
オオハクチョウ2事例(12/6, 1/12)【1】
上越市:ハシホソガラス1事例(12/1)【その他】
ハヤブサ1事例(12/1)【1】
新潟市:コハクチョウ1事例(12/19)【1】
村上市:ハヤブサ1事例(1/1)【1】

三重県(1事例)
明和町:オオハクチョウ1事例(12/14)【1】

石川県(2事例)
加賀市:ヒシギ1事例(1/15, 29)【1】

滋賀県(1事例)
草津市:オオハクチョウ1事例(1/4)【2】

岐阜県(1事例)
山根市:採卵鶏1事例(約8.1万羽)(1/14)

岐阜県(1事例)
各務原市:ハヤブサ1事例(2/24)【1】

宮城県(1事例)
栗原市:採卵鶏1事例(約22万羽)(3/24)

宮城県(2事例)
登米市:マガモ1事例(11/21)【1】
栗原市:マガモ1事例(11/26)【1】

青森県(2事例)
青森市:あひる(約1.8万羽)(11/28)
青森市:あひる(約4.7千羽)(12/2)

青森県(8事例)
八戸市:オオハクチョウ1事例(12/8)【1】
オオハクチョウ1事例(12/28)【1】
三沢市:コブハクチョウ1事例(12/5)【1】
オオハクチョウ1事例(12/19)【1】
弘前市:オオハクチョウ1事例(12/12)【1】
平内町:オオハクチョウ1事例(12/12)【1】
むつ市:オオハクチョウ1事例(12/12)【1】
十和田市:オオハクチョウ1事例(12/29)【1】

秋田県(6事例)
秋田市動物園:コハクチョウ3事例(11/15, 17)【1】
シロフクロウ3事例(11/23)【3】

岩手県(20事例)
盛岡市:オオハクチョウ9事例(11/23, 12/17, 22, 25, 27, 1/8, 2/13, 3/8)【1】
マガモ1事例(2/17)【2】
滝沢市:マガモ1事例(12/9)【2】
一関市:コハクチョウ1事例(12/13)【1】
オオハクチョウ2事例(12/18, 21)【1】
花巻市:オオハクチョウ1事例(12/20, 1/5)【1】
ハクチョウ類1事例(1/5)【1】
コハクチョウ2事例(12/22)【1】
大船渡市:オオハクチョウ1事例(12/22)【2】
紫波町:オオハクチョウ1事例(1/16)【1】

福島県(2事例)
福島市:オオハクチョウ1事例(12/2)【1】
鏡石町:オオハクチョウ1事例(12/14)【1】

栃木県(3事例)
真岡市:オオハクチョウ1事例(12/12)【1】
大田原市:オオハクチョウ1事例(1/13)【1】
那須塩原市:オオハクチョウ1事例(2/20)【1】

東京都(1事例)
足立区:オナガガモ1事例(2/3)【2】

愛知県(17事例)
名古屋市動物園:コハクチョウ3事例(11/29, 12/4, 6)【1】
シジュウカラ4事例(12/10, 13, 14, 17)【1】
マガモ2事例(12/13)【2】
ヒトリガモ1事例(12/13)【3】
環境試料2事例(12/17)

豊橋市:ヒトリガモ1事例(1/3)【3】
西尾市:ホシハジロ2事例(1/4, 11)【2】
スズガモ1事例(1/6)【2】
蒲郡市:スズガモ1事例(1/31)【2】

千葉県(1事例)
旭市:採卵鶏1事例(約6.3万羽)(3/24)

宮崎県(2事例)
川南町:肉用鶏1事例(約12万羽)(12/19)
木城町:肉用鶏1事例(約16万羽)(1/24)

鹿児島県(30事例)
出水市:環境試料1事例(11/14)
ツル24事例(11/18-26, 28, 12/3, 5, 6, 11, 14)【2】
カモ類生体・糞便5事例(11/20, 22-24)【2, 3】

茨城県(62事例)
水戸市:オオハクチョウ1事例(11/29)【1】
ユリカモ7事例(12/6, 15, 18, 20, 22, 24)【2】
コブハクチョウ30事例(12/8, 10-22)【1】
コハクチョウ14事例(12/19, 21, 26, 30, 1/4, 16-19, 21, 22, 24)【1】
カムライツブリ3事例(12/24, 25, 28)【2】
ホシハジロ1事例(12/21)【2】
鹿嶋市:ユリカモ2事例(12/18, 26)【2】
オオハクチョウ2事例(12/28, 1/19)【1】
ひたちなか市:ユリカモ1事例(12/24)【2】
潮来市:オオハクチョウ1事例(1/11)【1】

